

工業統計調査でみる広島県のあゆみ〔戦後～平成22年〕

1 戦後の復興と工業化の進展 (戦後～昭和39年)

工業統計調査で広島県の工業をみると、昭和20年の製造品出荷額(注1)(注2)は7億円でしたが、戦後の復興が進むにつれ昭和21年(20億円)、昭和22年(70億円)、昭和23年(199億円)、昭和24年(343億円)、昭和25年(515億円)と、広島県の工業は右肩上がりに回復していきました。(図1、参考表1)

(注1) 製造品出荷額、事業所数、従業者数は、特に注記がない限り、従業者4人以上の事業所の数値です。付加価値額は、平成12年までは従業者9人以下は粗付加価値額、平成13年以降は従業者29人以下は粗付加価値額です。

(注2) 「製造品出荷額」には加工賃収入額、その他収入額等を含みます。

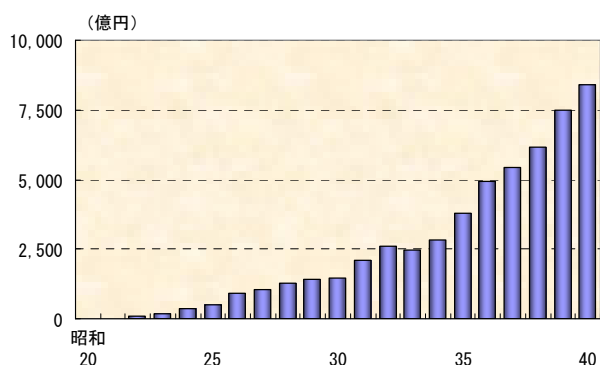
一方、同時期、全国的に盛んであった工業は繊維工業(製造品出荷額全体に対する構成比21.7%)、化学工業(構成比13.2%)、食料品製造(構成比12.5%)などでした。

ここで、船舶製造や自動車製造などの輸送用機械〔特化係数2.75(注3)]や化学工業(特化係数1.82)は特化係数(注3)が「1」を超えており、広島県では全国に較べてこれらの工業が特に発展していました。(表1)

(注3) ここでの特化係数とは、広島県の工業の種類別構成比を、全国の工業の種類別構成比で割ったもので、広島県の工業を種類別にみたとき、全国平均と較べてどのくらいそれに特化しているかみることができます。

(例) 広島県の輸送用機械の構成比(14.49)
 $\frac{14.49}{5.26} = 2.75$
 全国の輸送用機械の構成比(5.26)

図1 広島県の製造品出荷額の推移
(昭和20年～40年)



資料：経済産業省「工業統計表」

広島県で昭和25年当時盛んであった工業は、化学工業(製造品出荷額全体に対する構成比24.1%)、食料品製造(構成比19.8%)、船舶製造や自動車製造などの輸送用機械(構成比14.5%)、繊維工業(構成比10.4%)でした。

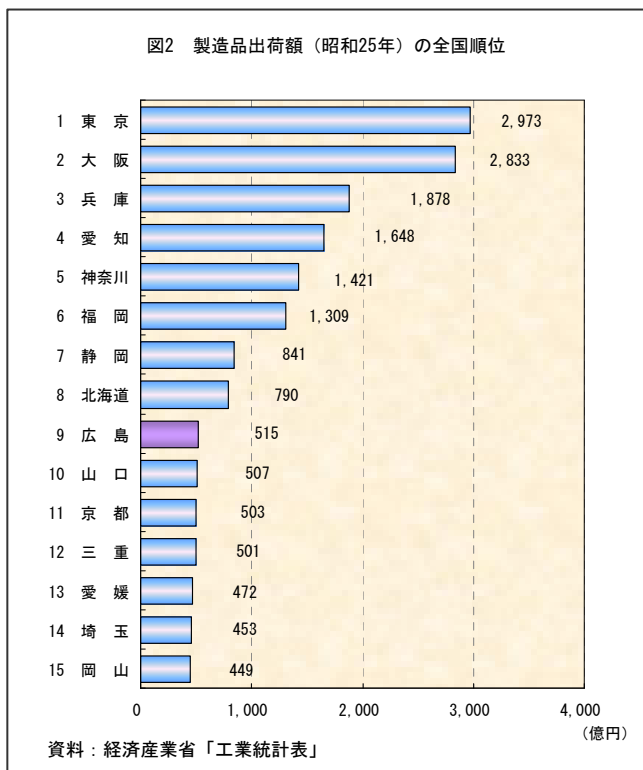
表1 広島県と全国の製造品出荷額と特化係数

(単位：百万円、%) (従業員4人以上の事業所)

産業中分類	昭和25年(1950年)			
	広島県	構成比	全国比	特化係数
総数	51,509	100.00	2.25	1.00
化学工業	12,407	24.09	4.09	1.82
食料品	10,193	19.79	3.55	1.58
輸送用機械	7,464	14.49	6.18	2.75
繊維工業	5,359	10.40	1.08	0.48
一般機械	2,560	4.97	2.28	1.02
鉄鋼業	2,104	4.08	0.95	0.42
木材・木製品	1,935	3.76	2.27	1.01
出版・印刷	1,350	2.62	1.82	0.81
ゴム製品	1,205	2.34	2.16	0.96
その他	1,074	2.09	3.50	1.56
金属製品	1,042	2.02	1.56	0.69
電気機械	964	1.87	1.30	0.58
窯業・土石	938	1.82	1.24	0.55
衣服	693	1.35	1.80	0.80
非鉄金属	620	1.20	0.71	0.31
家具・装備品	503	0.98	3.30	1.47
パルプ・紙	431	0.84	0.53	0.23
精密機械	300	0.58	1.71	0.76
石油・石炭	275	0.53	0.84	0.37
なめし革	93	0.18	0.56	0.25
飲料・たばこ	-	-	-	-
プラスチック	-	-	-	-

資料：経済産業省「工業統計表」

ちなみに、昭和 25 年の製造品出荷額の全国順位は、1 位 東京都 (2973 億円)、2 位 大阪府 (2833 億円)、3 位 兵庫県 (1878 億円)、4 位 愛知県 (1648 億円)、5 位 神奈川県 (1421 億円)、6 位 福岡県 (1309 億円)、7 位 静岡県 (841 億円)、8 位 北海道 (790 億円)、9 位 広島県 (515 億円)、10 位 山口県 (507 億円) でした。(図 2)



広島県では、昭和 27 年に「消費県から生産県へ」というキャッチフレーズで「生産県構想」を策定し、当時、全国平均の 8 割弱に留まっていた 1 人当たりの県民所得を全国水準まで引上げることを目標に、「農林水産業の振興」、「商工業の振興」、「交通網の整備強化」、「治山治水の確立」の 4 つの重点施策を実施しました。

昭和 34 年からは「生産県構想第 2 次計画」がスタートし、「臨海工業地帯の造成を推進し、工業用地、工業用水、電力等の確保を始めとする立地条件の向上整備に努める。」ことが最重要施策として実施されまし

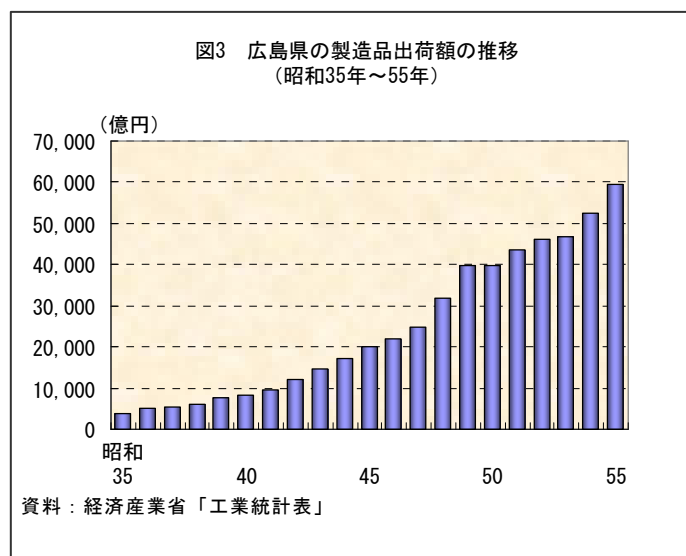
た。

そこで、工業統計調査で広島県の昭和 30 年の製造品出荷額をみると 1475 億円で、昭和 35 年には 3798 億円で 2.6 倍に、昭和 40 年には 8384 億円で、昭和 30 年の 5.7 倍にまで工業化が進展し、全国平均を上回る成長を成し遂げました。(図 1, 参考表 1)

2 経済の高度成長と臨海工業地帯の形成 (昭和 40 年～49 年)

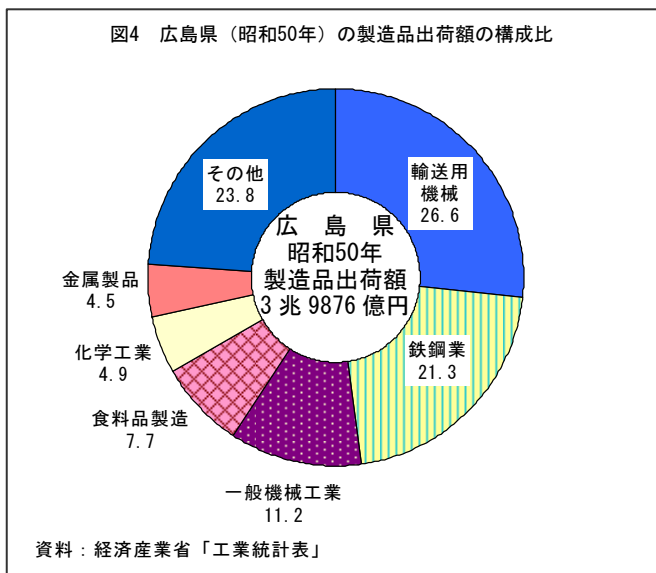
広島県の製造品出荷額は、昭和 42 年に 1 兆 2115 億円で 1 兆円を超え、昭和 45 年には 2 兆 163 億円と 2 兆円の台に達しました。工場などで働く従業者数は、昭和 44 年に 308,743 人で 30 万人を超え、昭和 48 年には 336,291 人と、昭和 20 年から平成 22 年まで間では、最大の従業者数となりました。(図 12, 参考表 1)

昭和 50 年には、製造品出荷額は 3 兆 9876 億円と、昭和 40 年の 4.8 倍にまで急成長しました。このとき、広島県の製造品出荷額の全国に対する割合は 3.17% で、昭和 40 年の割合 2.87% よりも 0.3 ポイント上回り、広島県の工業は全国シェアを拡大し、全国以上の割合で急成長しました。(図 3, 参考表 1, 図 11)



広島県では、昭和 38 年に「県政振興の基本方針」を策定し、この中で「今後、わが国における大規模新規工業地帯として、最も発展が期待されている瀬戸内海の中心としての立地条件を生かし、臨海工業地帯の造成整備のための施策を積極的に推進する。」として、広島県内への企業誘致に積極的に乗り出したこともあり、西は大竹市から東の福山市に至るまで広島県の沿岸部は、鉄鋼業、一般機械工業、自動車製造や船舶製造などの輸送用機械、化学工業などの臨海工業地帯となりました。

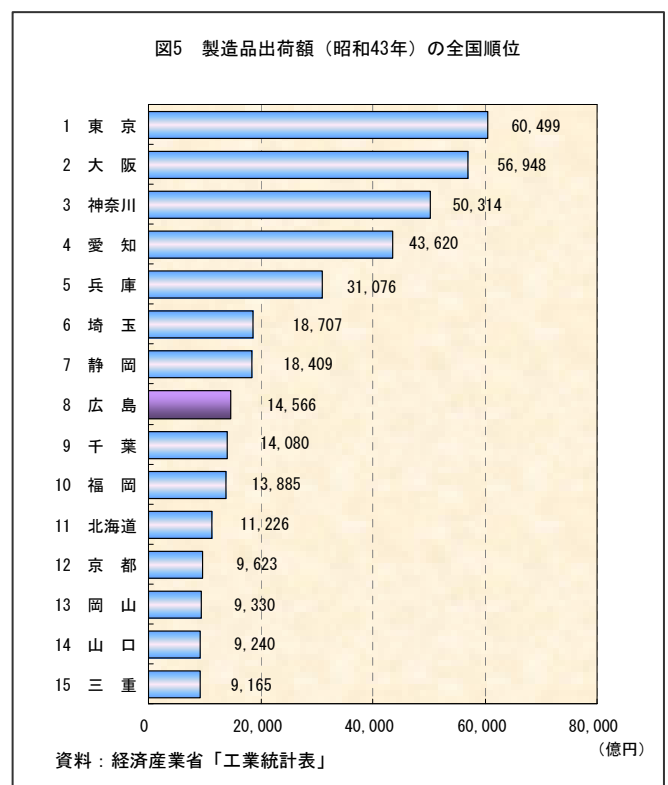
そこで、工業統計調査で広島県の昭和 50 年当時盛んであった工業をみると、1 位が自動車製造や船舶製造などの輸送用機械(製造品出荷額全体に対する構成比 26.6%)、2 位が鉄鋼業(構成比 21.3%)、3 位が一般機械工業(構成比 11.2%)、4 位が食料品製造(構成比 7.7%)、5 位が化学工業(構成比 4.9%)、でした。(図 4)



なお、広島県の製造品出荷額は、昭和 42 年(1兆 2115 億円)、昭和 43 年(1兆 4566 億円)で、福岡県は昭和 42 年(1兆 2669 億円)、昭和 43 年(1兆 3885 億円)と、昭和 43 年に広島県は福岡県を抜いて中国や四国と九州地方の中で製造品出荷額が第 1 位となりまし

た。(参考表 1)

ちなみに、この年の全国順位は、1 位 東京都(6兆 499 億円)、2 位 大阪府(5兆 6948 億円)、3 位 神奈川県(5兆 314 億円)、4 位 愛知県(4兆 3620 億円)、5 位 兵庫県(3兆 1076 億円)、6 位 埼玉県(1兆 8707 億円)、7 位 静岡県(1兆 8409 億円)、8 位 広島県(1兆 4566 円)、9 位 千葉県(1兆 4080 億円)、10 位 福岡県(1兆 3885 億円)でした。(図 5)



また、この広島県の全国順位第 8 位は、昭和 20 年から平成 22 年までの間で、最高順位となっています。(参考表 1)

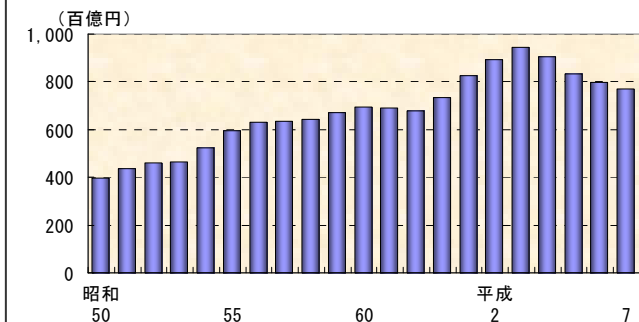
3 オイルショックから安定成長へ(昭和 50 年~昭和 59 年)

昭和 48 年と昭和 54 年の 2 度にわたるオイルショックは、日本経済に大きな打撃を与えました。

そこで、工業統計調査で広島県の昭和 50 年の製造品出荷額をみると、3兆 9876 億円で、昭和 55 年には 5兆 9648 億円と 1.5 倍

に、昭和60年には6兆9616億円と、昭和50年の1.7倍になっていますが、昭和30年代や40年代と較べると、成長は鈍っており、2度のオイルショックの影響が現れています。(図6、図1、図3、参考表1)

図6 広島県の製造品出荷額の推移 (昭和50年～平成7年)

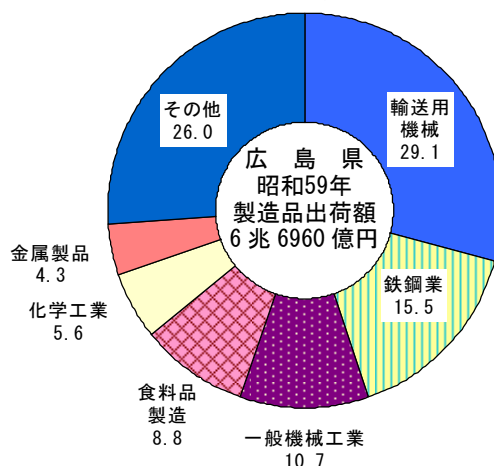


資料：経済産業省「工業統計表」

ちなみに、全国的には、昭和50年の製造品出荷額は125兆8409億円で、昭和55年(212兆1243億円)には1.7倍に、昭和60年(265兆3206億円)には昭和50年の2.1倍と、広島県より伸びていますので、広島県の自動車製造や船舶製造などの輸送用機械や鉄鋼業などの主要な工業は全国と較べて、オイルショックの影響を強く受け、昭和30年代や昭和40年代頃の大規模な伸びとは打って変わって昭和50年代は、安定成長の時代となりました。(参考表1)

昭和59年に盛んであった工業は、1位が自動車製造や船舶製造などの輸送用機械(製造品出荷額全体に対する構成比29.1%)、2位が鉄鋼業(構成比15.5%)、3位が一般機械工業(構成比10.7%)、4位が食料品製造(構成比8.8%)、5位が化学工業(構成比5.6%)、でした。(図7)

図7 広島県(昭和59年)の製造品出荷額の構成比



資料：経済産業省「工業統計表」

4 バブルの時代 (昭和60年～平成3年)

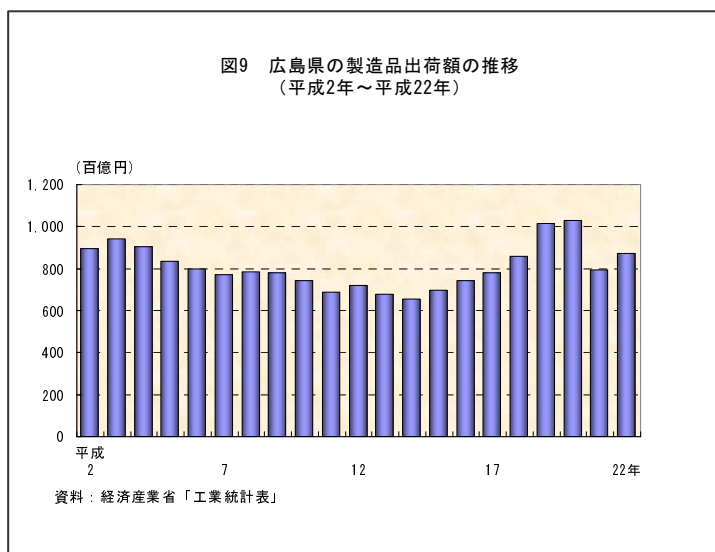
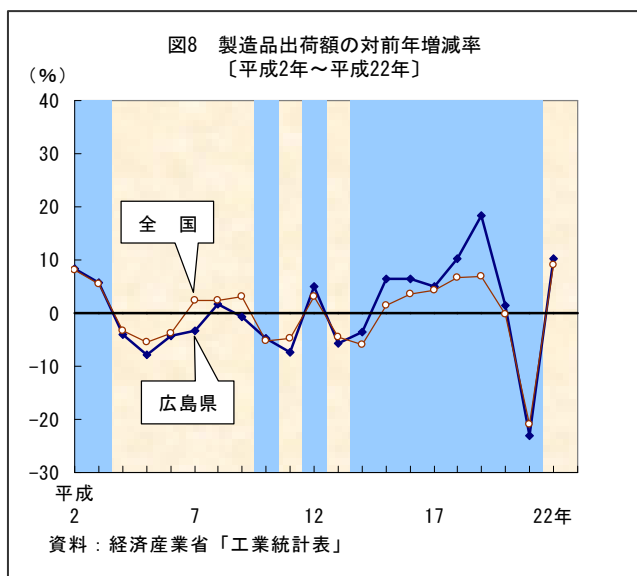
昭和20年から昭和60年まで、広島県の製造品出荷額は、昭和33年を除き順調に伸びてきましたが、昭和60年のプラザ合意後の円高不況により、昭和61年は6兆8930億円(対前年比▲1.0%減)、昭和62年は6兆7867億円(対前年比▲1.5%減)と、2年連続で対前年の伸び率がマイナスとなりました。(図6、参考表1)

しかし、その後は平成景気といわれる高い経済成長を遂げ、昭和63年は7兆3238億円(対前年比7.9%増)、平成元年は8兆2500億円(対前年比12.6%増)、平成2年は8兆9314億円(対前年比8.3%増)、平成3年は9兆4338億円(対前年比5.6%増)と4年連続でプラスとなり、平成3年は9兆円を超え、過去最大となりました。(図6、参考表1)

5 バブル経済崩壊と景気回復の時代 (平成4年～平成22年)

平成3年にいわゆる「バブル(経済)」がはじけ、経済成長は落ち込みます。

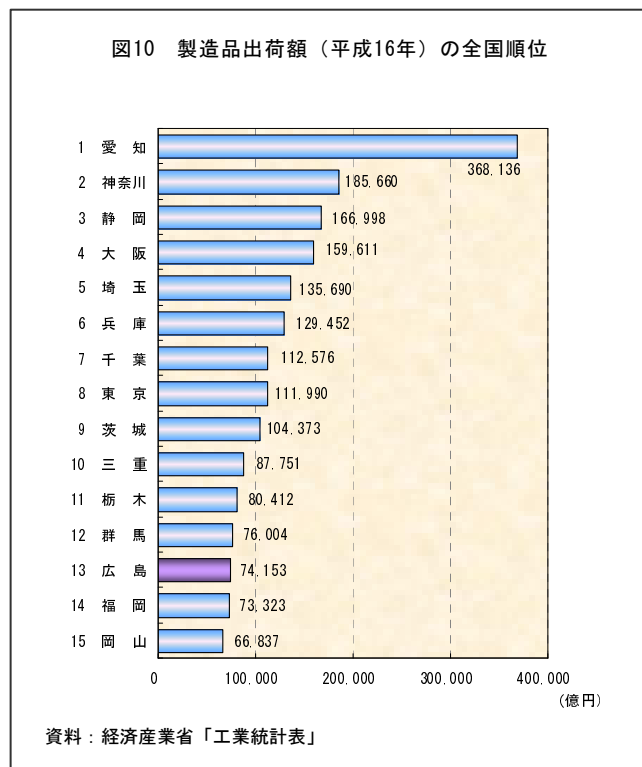
そこで、工業統計調査で広島県の平成4年から平成14年までの製造品出荷額をみると、この11年間のうち9回が対前年比マイナスとなっており、広島県の製造業にとって厳しい時期が続きました。(図8、図9、参考表1)



広島県の工場などの事業所数をみると、昭和58年は9,758事業所で、過去最大となりましたが、昭和59年から平成3年まで横ばいで、平成4年以降は減少に転じています。(図11、参考表1)

また、広島県の工場などで働く従業者数は、昭和48年が336,291人で過去最高と

なりましたが、昭和48年から昭和54年まで6年連続で減少し、昭和55年から平成3年までは横ばいでしたが、事業所数と同様に平成4年以降は減少に転じています。(図12、参考表1)



しかし、平成14年1月を底に全国的に景気が回復をはじめ、平成18年11月には「いざなぎ景気」を抜いて戦後最長の景気拡大を記録しました。

そこで、工業統計調査で広島県の製造品出荷額をみると、平成15年から平成20年まで6年連続で増加しつづけ、平成19年(製造品出荷額10兆1586億円)と平成20年(製造品出荷額10兆2935億円)は2年連続して10兆円を超えました。(図9、参考表1)

ちなみに、平成16年は10年ぶりに広島県(製造品出荷額7兆4153億円)は福岡県(製造品出荷額7兆3323億円)を抜いて、製造品出荷額が中国や四国と九州地方の中で第1位に返り咲きました。(図10)

その後、平成21年の製造品出荷額は7兆9178億円(対前年比▲23.1%減)と、平成

20年9月のリーマンショックの影響により、戦後最大の落ち込みとなりましたが、平成22年は8兆7325億円で、リーマンショック前の85%の水準まで回復しています。(図9、図8、参考表1)

- 《参考資料》・経済産業省「工業統計調査」
- ・広島県立文書館「開発の時代」

